

今こそ、「子供を守れ、脱原発」の声を、地域から

埼玉県三郷市・大場敏明（埼玉保険医協会・埼玉反核医師の会）

福島原発事故で 三郷もホットスポット

昨年3月11日、東日本大震災に伴う東電福島原発の事故により、放射性物質が大量・広範囲に放出。福島原発から200kmの三郷市もホットスポットに。私が世話人代表を務める「三郷のこどもを放射線から守る連絡会」は昨年6月に発足。子育て世代の父母市民グループ「放射線から子どもたちを守ろうーSCRみさと」や市民団体・市議とも協力して、市への要請・提言、放射線量測定運動や、被ばく問題学習会などを開いてきた。

子供を守る活動は、我々の世代の責任

なぜ「連絡会」発足か。①人類が初めて直面する同時多発原発事故で、世界史に残る大事故でのホットスポット被災地。②大地震等での大災害が危惧しつつ、世界有数の地震多発日本の狭い国土に世界一の密度での原発建設を許してしまった責任。③被爆者医療に関わった医師として放射線障害の危険を知らながら原発建設拡大を阻めず、初期事故対策の不十分さの責任等からも、健康を守る医師として放射線対策を進めなければと考えた。

放射線対策そして脱原発が歴史的使命

三郷市には4回提言し、「放射能対策室」新設や、保育園・小中などの除染に取り組んでいる。又、子供たちの尿「セシウム検査」を実施。33%の子に検出、放射線対策群では1割だけで、対策なし群では8割検出との明確な差が出、除放射線対策の重要性を確認。今、行政と市民を上げての測定と放射能軽減を大きく取り組み、放射線汚染を軽減させ住みよい三郷・日本を子ども達に引き継ぐこと、そしてかくも危険な原発はゼロの日本を実現することが我々の歴史的使命だと考える。